

2012年(平成24年)7月13日 金曜日

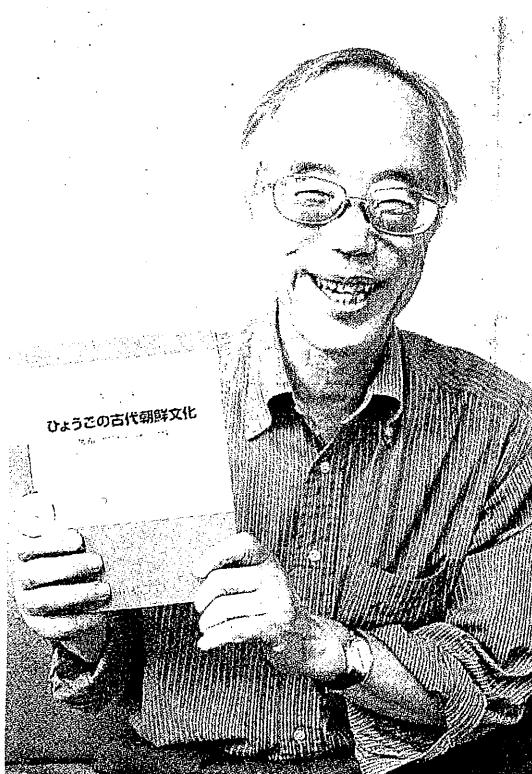
申

戸

衆

星

古代遺跡研究 30年の集大成



「古代から続く朝鮮半島との交流が現代の暮らしのベースになっている」と話す寺岡さん=神戸学生青年センター

阪神間の朝鮮文化探る

朝鮮半島の歴史文化を学ぶ市民サークル「むくげの会」(灘区、神戸学生青年センター内)の寺岡洋さん(70)=西宮市=が、阪神間の古代遺跡に刻まれた半島との交流の跡を探った「ひょうごの古代朝鮮文化」を出版した。5

~7世紀を中心とした出土品から渡来系集団の動向を探り、関連遺跡を網羅。30年近くにわたる現地調査などの地道な蓄積が実った。(仲井雅史)

市民サークル「むくげの会」寺岡さんが本出版

寺岡さんは古代史を勉強する中で、朝鮮半島と政治・文化交流に興味を持つようになつた。1984年にむくげの会に入会し、県内の遺跡の研究を始めた。

寺岡さんは「古代における半島とのつながりは強いが、足元を「寧に見れば阪神間にも交流の跡がたくさんある。多くの人に興味を持つほしい」と話している。

出土品から交流の跡追う

神戸、尼崎、伊丹、芦屋、三田など計8市の遺跡を網羅した。

東灘区にあるJR住吉駅近くの住吉宮町古墳群

(5世紀中~6世紀初)では馬の歯や馬の骨が見つかり、馬の首が供えられたとみられる。当時、馬は大陸や半島からもたらされた貴重な動物。馬

をいけにえにする渡来人の風習が読み取れるといふ。尼崎市の若王子遺跡の井戸(6世紀中頃)は、船材を枠に用いており、渡来人が使った船を転用したと推測した。

寺岡さんは「古代における半島とのつながりは大和や北九州のイメージが強いが、足元を「寧に見れば阪神間にも交流の跡がたくさんある。多くの人に興味を持つほしい」と話している。

A5判、220ページ。1

050円。むくげの会

「古代から続く朝鮮半島との交流が現代の暮らしのベースになっている」と話す寺岡さん=神戸学生青年センター